

Opening Event 7.14sun [drawing 14/07/2019]

村田峰紀さんによるライブパフォーマンスを行います。

プロフィール

村田 峰紀 (MURATA Mineki)

1979年群馬県生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。原初的な身体所作で強いインパクトを与えるパフォーマンスやその結果として産み出されるドローイング、インスタレーション、映像等を発表している。

書く=意識、描く=結果、揺く=行為、欠く=潜在

個人の活動の他にOngoing collectiveに在籍し活動している。

【ホームページ】 <http://mineki-murata.com>

日時：7月14日(日) 14:00～

場所：AIR 南山城村 “青い家”



撮影：若林勇人

harmony 卵

村で暮らす7人のおばちゃん「harmony 卵」がランチを担当します。

村の猟師さんが仕留めた鹿を使った「シカライス」と

村野菜たっぷりの「やさいスープ」でおもてなし。

お楽しみにお越しくださいませ。

※材料がなくなり次第終了いたします。
※写真はイメージです。



アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

駐車場はギャラリー本館前にございます。

そちらをご利用ください。

■お車でお越しの場合

●大阪・奈良方面より：369号線→4号線、途中左折して82号線

●京都・三重方面より：163号線→82号線

●名阪国道より：名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

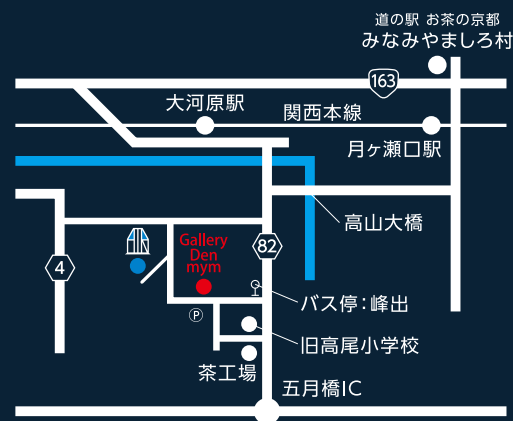
■公共機関でお越しの場合

●大阪方面より

加茂駅(JR大和路快速)で乗り換え、月ヶ瀬口駅(関西本線)下車

●京都方面より

木津駅(JRみやこ路快速)で乗り換え、加茂駅から同上



高山大河原線村営バスをご利用ください。

月ヶ瀬口駅で下車してください。

行き
月ヶ瀬口駅前発
13:15、15:45
峰出で下車してください。

帰り
峰出發
17:19、18:19
月ヶ瀬口駅前下車してください。

Gallery Den mym

ギャラリーデン南山城村

主催 / Gallery Den mym

後援 / 南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012 定休日：水・木曜日

E-mail: gdmym@nifty.com URL: galleryden-mym.com



Gallery Den mym

長友 紀子展

They are in a fair, and I'm here.

Noriko Nagatomo



AIR 南山城村

今井 大介展

石に名前を付けて 然るのち なまえをおとにかえす

Daisuke Imai

2019.7.14sun ~ 7.27sat

12:00 ~ 17:00 初日のみ12:30 ~

毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。

Gallery Den mym

ギャラリーデン南山城村

AIR 南山城村
Artist In Residence 青い家



長友 紀子
Noriko Nagatomo

PROFILE

1975 京都府生まれ
2007 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業
2019 奈良教育大学教育学研究科美術教育専修了

■主な個展

2006 すどう美術館(銀座)
2007・2008 galleryはねうさぎ(京都)
2008 Gallery SORA(大阪)
2009 Gallery Den(大阪)
2010 Nroom artspace(東京)
2010 すどう美術館(小田原)
2011 Gallery無有斎(東京)
2012 すどう美術館(小田原)
2014 galleryはねうさぎ(京都)

■主なグループ展・アートフェア

2008・2009 Art Karlsruhe(Karlsruhe/Germany)
2009 入江清美・後藤雅樹・長友紀子3人展(DWP gallery/東京)
2010 Step 01(Milano/Italy)
2010・2011 作家の視点2010/2011(上野の森美術館/東京)
2011 VISUAL SENSATION Vol.4(Gallery Den mym/南山城村)
2017 BIG SENSATION(Gallery Den mym/南山城村)
2017 浮遊者三人展(gallery Jun/尾道)
2018 奈良教育大学×北海道教育大学 大学院生交流絵画展(HUG/北海道教育大学)
2019 まわるめぐる展(maru room/奈良)

■受賞歴

2006 上野の森美術館大賞展 優秀賞
2008 若き画家達からのメッセージ展 入賞
2008・2009 おばまビエンナーレ 優秀賞

They are in a fair, and I'm here.

今回の展覧会で使っている「fair」という単語は、「移動式遊園地」という意味です。それも大きなものではなく、地方の町に年に一回くらいやってくる、小さな観覧車やおもちゃのようなメリーゴーランドのある遊園地のことです。

移動式遊園地はいつの間にかやってきて、ふと、またどこかに行ってしまう不確かな存在でありながら、乗り物の賑やかな飾りや人々の歓声や音楽や屋台の食べ物など、様々な色や音やものが溢れ、心を浮き立たせるものでもあります。そしてそこには、いつもあるわけではない不確かさからくる覚束なさや、にぎやかな色や音に心が浮き立つ感覚があります。

さて、物どころがつく前の子どもを見ていると、時々すべてのことを理解しているのではないかと思うくらい考え込んだり遠くを見るような表情をしていることがあります。彼らは何を見ているんだろう。自分もかつてそうであったのに今はもう思い出せないそれは、夢の中で思考に沈んでいるような覚束ないけれども心地のいい感覚です。「fair」=「移動式遊園地」という単語は、そんな感覚の象徴として捉えました。

彼らは移動式遊園地の中にいて、私はここにいる。
そして、私は彼らを作品の中に描いています。



今井 大介
Daisuke Imai

PROFILE

1979 秋田県出身
2007 多摩美術大学大学院美術研究科修了

■主な個展

2008 「蛇口 あるいは 平行宇宙」(秋山画廊/東京)
2009 「群盲が巨象を撫でる」(秋山画廊/東京)
2010 「城」(秋山画廊/東京)
2014 「沼の地図、山の空白」(秋山画廊/東京)

■主なグループ展

2009 「rule of」(ZAIM/神奈川)
2010 「眼の構造 あるいは 重力」(秋山画廊/東京)
2012 「short」(秋山画廊/東京)
2013 「的のその先」(アキバタマビ21/東京)
2015 「居ない、しるし」(秋山画廊/東京)

石に名前を付けて 然るのちなまえをおとにかえす

夜明け前に目覚めて眠れず、散歩に出た。

霧が立つ沼のほとりから小川を遡り、まだ暗い田畑の畦を抜け、山との境を分かち祠へさしかかる頃、白みはじめた大気に浮かぶ見慣れたはずの山々が、なにかわからないものを感じられた。薄明りゆえ、輪郭すら茫洋とした、青黒いなにか。色も形もわからないなにか。なにかわからないが、たしかにそこに、なにかがある。気付けば風は風ぎ、音も時も無い。まるで真空の中にいるようだ。変わらぬ風景を伸縮する時が、距離のように空間を、犬とともに鮮やかに、振動し、拡がり、音を出し続ける事だけが唯一、ひばりの軌跡や水の状態変化を、固着し、結晶し、無音に共鳴し、すでに位相がズレた世界の中で、石に名前をつけ、吾も苔も変わらぬ器として、石にほんとうの名前をつけ。

そのようにして、なにかわからないところから持ち帰った“特別な”その石は、帰宅する時分にはすでに明るくなったアトリエの隅で、無数の“特別な”石に紛れて見分けがつかなくなる。そんなことを、ここ数年繰り返している。